



フェンスの調べ

「月の砂漠」などのメロディーが棒でたたくと奏でられるユニークなフェンス（全長約24㍍、高さ約70㍍）が、相模原市内の住宅に登場した（花輪 久写す）
 <記事19面に>



音源のステンレス板や演奏の手助けとなる音符の説明をする三浦さん 相模原市津久井町青山（花輪 久写す）

フェンスも鼻歌♪ 相模原の三浦さん 自宅に手作り

月の砂漠、春の小川。棒でたたくと、こんな懐かしい2曲のメロディーを奏でるフェンスが、相模原市津久井町青山の塗華業、三浦巖さん（66）方にお目見えした。「フェンスは家を囲むだけではなく、地域の人が集い、楽しめるものになりたい」という願いが込められている。

全長約24㍍、高さ約70㍍のフェンス。そこに厚さ約2㍉、約10㍍四方のステンレス板が157枚、糸でつり下げられている。

演奏はすべて手動。板の一枚一枚が一つの音符に当たり、曲のリズムを思い浮かべてたたくと、曲が流れる。演奏しやすいように、板の上方に五線譜と音符が取り付けられている。近くで金属加工業を営む三田村幹弘さん（57）が、約1カ月で作り上げた。

三浦さんは、散歩する保育園児や近くの豆腐店への買い物客が行き交う小道沿い。三浦さんと三田村さんは「フェンスをたたくて明るい気持ちになってくれればうれしい。これを津久井発の技術として、全国に発信できれば」と話している。

（戸田 貴也）

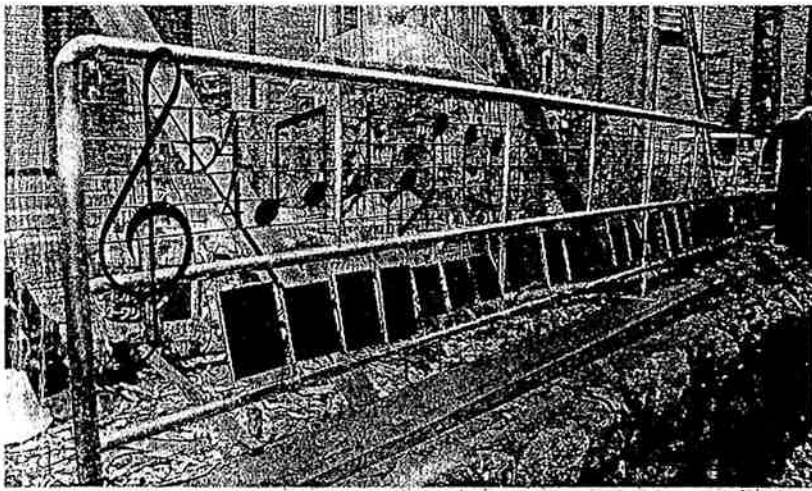
民家の庭囲む 楽譜フェンス

津久井町青山

叩くとメロディーも

相模原市津久井町青山
八九二の三浦巖さん宅の
庭に六月二十三日、ステ
ンレス製の「音の出る楽
譜フェンス」がおめみえ
した。

製作したのはステンレ
ス加工、コンベヤー製
作、鋸金、溶接加工など
を業務にする(有)三田村機
工(同町青野原二二三六
―二、三田村幹弘社長)。
ステンレスの板から音



幼児が楽しむ楽譜フェンス

符の形をした部品をレー
ザーでくりぬき、五線紙
にあたる丸棒に溶接して
楽譜の体裁に仕上げた。
さらに音符一つひとつの
下に厚さ二ミリ、大きさは
十センチ四方ほどの大小さま
ざまなステンレス板百五

十七枚をナイロン糸でつ
るし、木琴用の棒でたた
くとその音符の高さの音
が出るようにしている。
採譜した曲は「月の砂
漠」と「春の小川」。
家の前の道を散歩で通
る近所の保育園の子ども
たちに楽しんでも

らおうと、三浦さ
んが三田村さんに
相談を持ちかけ、
二人で考案した。
製作にあたり、
異なる高さの音を
出す板をどう作る
かが最大の難関
で、三田村社長は
「大きさを変える
だけではうまくい
かず、板の端をい

ろいろな幅に折り曲げる
ことで音の違いを出すこ
とに成功した」と独自の
工夫を説明する。

三週間あまりを費やし
て完成したフェンスは全
長約二十四メートル、重さは
約百キログラム、高さは約七十
センチ。全体を六つの部分に
分けて製作し、高さ約八
十センチの石壁の上などに設
置した。

同社長は「初めて手が
けた製品だけに三回作り
変えて完成にこぎつけ
た。今後、このノウハウ
を生かし、個人宅だけで
なく公園など子どもたち
が集まる施設からのニ
ーズにも応えていきたい
と意欲的だ。









2008.06.04

